

心理学研究法 I

科目コード●050508

担当教員●木村 進・西野美佐子・白井秀明
吉田綾乃・大関 信隆・平川昌宏

2 単位 | R or SR | 2 年以上

福祉心理
必修

科目の内容

この科目は、心理学において使われる代表的な方法について、基本的な理解を図ることを目指しています。代表的な方法の一つである「実験法」については、別に「心理学実験 I」、「心理学実験 II」として科目が設定されているので、ここでは、**実験法以外の方法**について取り上げることにします。また、「検査法」については、「研究法 II」のスクーリングにおいて実習を行う予定になっています。

心理学は、実証的学問です。実証的というのは、データを収集し、それを分析して、その結果に基づいて論を展開するということです。したがって、どのようなデータをどのような方法で収集するかということが、心理学の研究においてはきわめて重要な意味を持つこととなります。つまり、心理学の研究において使われる方法は、正確にデータをキャッチできるものであるだけでなく、客観的に評価される科学的なものでなければなりません。同時に、心理学の研究の対象は、多くの場合、人間ですから、どのような方法を使う場合でも、そこには一定の倫理性が保たれていなければなりません。この科目では、単に研究法の習得を目指すだけでなく、倫理性・科学性の問題を含めて、心理学における方法論の理解を目標にします。

なお、この科目では平成19年度よりスクーリングを開講しました。このスクーリングは必須ではありませんが、できうる限り参加することをお勧めします。

教科書

大村彰道編著『教育心理学研究の技法』(シリーズ・心理学の技法) 福村出版、2000年
『福祉心理学科 スタディ・ガイド』東北福祉大学(福祉心理学科以外の方は通信教育部ホームページで閲覧可)

レポート課題

この科目は2単位です。したがって、提出しなければならないレポートは2つですが、課題は5つ設定してあります。1単位めは、**課題1～3の中からいずれか1つを選んでレ**

ポートを作成し提出してください。2単位めは、「心理学研究法 I」のスクーリングを受講するかどうかによって、取り組む課題が異なります。つまり、「心理学研究法 I」のスクーリングを受講しない人は**課題4に**、受講する人は受講後に**課題5**に取り組みレポートを提出することになります。

なお、1単位めの課題と2単位めの課題のうち、どちらの課題を先に行っても構いません。ただし、2単位めの課題が「観察法」「面接法」「質問紙法」の理解を問う課題であるのに対して、1単位めの課題が各研究法に関する理解を応用して自身で研究計画を立てる課題になっていますので、**2単位めの課題を先に行った方が、1単位めの課題もより容易に取り組むことができる**と思います。

1 単位め (1 課題選択)	<p>課題1 気の長い人と短気な人を観察法によって見分けるための研究をするとしたら、どのような観察を行うかを中心に、研究計画を立てなさい。</p> <p>課題2 小学生における教科の好き嫌いに影響する要因について面接法で研究するとします。半構造化面接によって調査を行うとしたら、どのような研究計画になるか考えなさい。</p> <p>課題3 子どもの攻撃性の高さに対するテレビの影響というテーマで、質問紙法を使って研究するとしたら、どのような研究をするか、研究計画を立てなさい。</p>
2 単位め	<p>課題4 (「研究法 I」スクーリングを受講しない人はこの課題を行ってください) 「観察法」「面接法」「質問紙法」のそれぞれについて、その方法の効用と限界(留意点)を述べなさい。</p> <p>課題5 (「研究法 I」スクーリングを受講する人はこの課題を行ってください) 「心理学研究法 I」スクーリング終了時に配布される研究論文の中から1つを選び、</p> <ol style="list-style-type: none"> I. 選択した研究の①目的、②仮説、③方法をまとめなさい。 II. 選択した研究と同じ目的や仮説で研究を行うとすれば、あなたは「観察法」「面接法」「質問紙法」のうちどの方法を用いるか、そして、なぜその方法を選択するかについて述べなさい。

レポート提出上の注意

- (1) この科目のレポートは、**1単位ずつ提出**してください。1単位の課題の字数は2,000字程度ですが、レポート用紙の p.16まで使用し4,000字程度まで記入することも可です(パソコン印字の場合左右40字×30行×4枚まで)。
- (2) 1単位めの課題が取り組みにくく感じる方、再提出が続く方は、この科目のスクーリングを受講してから提出してください。
- (3) 2007年度から2単位めの課題が変更になりました。『レポート課題集2006』の課題の提出も2008年9月で締め切りました。再提出者も含めて必ず今年度の課題で提出してください。

2 単位の課題変更にともない、2006年度まであったレポートの提出順序の指定（1 単位合格後 2 単位提出）はなくなりました。2 単位（課題 4）を先に提出することも可です。とくにスクーリングを受講しない方にとっては、2 単位の方が取り組みやすい課題です。

- (4) 2 単位課題 4 や旧 2 単位レポート課題に合格した方もスクーリングを受講することができます。その際、2 単位課題 5 の提出は不要です。
- (5) スクーリングを受講しない方は、通常の科目と同様に科目修了試験受験の必要があります。この科目のスクーリング試験、科目修了試験ともに、心理学研究法の基礎的な理解がないと合格が難しい傾向にありますので、充分学習をしてから臨んでください。

スクーリング受講条件

スクーリング申込締切日までに、福祉心理学科専門必修科目・専門選択科目 A 群のなかから 7 科目分のレポート（4 単位科目は 4 課題などその科目の全てのレポート）を提出していること（実験科目を含めること可・特講科目・S 科目は含まれない）。

アドバイス

1 単位
解説

課題 1～3 は、同じ種類の課題ですので、まとめて解説します。それぞれの課題には、テーマと使用方法が指示されています。この科目の目標は、研究法を学習することにあるので、それぞれの方法についての学習を進めたいうえで、つまり、それぞれの方法について十分理解したうえで、指示に従って研究の計画を立てるといったのが課題です。次のような学習の進め方をし、そのうえで、以下に示すような内容のレポートにまとめてください。

- (1) 教科書の 1 章を読んで、研究の進め方についての全体的な理解を図ってください。
- ここには、研究の進め方についての一般的な考え方と、実際の研究に基づいた研究の進め方の例とが書かれています。1 節の 1 と 2 をまず読み、次に 3 節を読んで理解してから、2 節の事例を読んだ方がわかりやすいかもしれません。また、2 章以降のそれぞれの方法についての理解を確立した後で、もう一度 2 節を読むと、より一層理解が深まると思われます。
- (2) 次に、それぞれの方法（2 章から 5 章）について理解します。それぞれの方法について 1 節に「～法への招待」、2 節に研究紹介、3 節に「～法の手順と留意点」という構成で書かれていますので、まず 1 節を読んで、その方法についての基本的な理解を確立し、次に 3 節を読み、一般的な理解が進んでから、2 節の研究例を通してその方法についての具体的な理解を図るといった学習の仕方が望ましいでしょう。

- (3) この段階で、観察法、面接法、質的分析、質問紙法の 4 つの方法についての理解ができたこととなります。次に、課題 1～3 のどれかを選んで、そこで使うことになっている方法について改めて読みなおして、理解を確実なものにしてください。特に、各章 2 節を参考にすることになりますので、そこはしっかり読みましょう。なお、課題 2 に取り組む際「半構造化面接」の意味を辞典、参考図書で調べて理解する必要があります。

- (4) いよいよ課題に取り組めます。それぞれに示されているテーマは漠然としていますので、まず研究の目的をはっきりさせることから始めます。つまり、そのテーマにそって、最終的に何を明らかにしたいか、ということをもまず考えなければなりません。課題 1 は「気が長いか短気か」ですからはっきりしていますが、次のように取り組むとよいでしょう。「気の長い・短い」は、心理学ではこれまでどのような分野で扱われてきたのでしょうか。これから研究計画を立てようとするテーマに関連した行動をある程度特定することが必要です。例えば、「気の長い・短い」は、これまでもよく「のろま・ぐず」とか「せっかち・早とちり」などと称されてきたものに近いかもしれないことに気づくでしょう。そこで、その行動は日常生活のどんな場面でよく見かけるか考えてみてください。このように研究しようとする行動とその「気の長い・短い」の（自分なりの）定義をし、仮説を立てて研究内容を絞り込むことです。その後、研究対象、観察場所、時間、観察行動などを考えてください。観察の手法は、自然的観察だけでなく、その行動がよく見かけるように仕掛けた実験的観察でもよいでしょう。組織的な観察法を用いる場合は、観察チェックに必要な行動カテゴリーをどんなものにするか考えることが必要です。その後の結果処理、すなわちデータがどう示されれば仮説が検証されると言えるのかを考えるとよいでしょう。課題 2 は「教科の好き嫌い」としか指定していないので、「教科の好き嫌い」ということをどのように捉えるかを具体的に考えなければなりませんし、同時に、「影響する要因」といっても、さまざまに考えられるわけですから、どんな要因を取り上げるかということも考える必要があります。課題 3 も、「テレビの影響」といってもいろいろ考えられるので、そこをどう捉えるか、ということがポイントになります。

- (5) 研究についての具体的なイメージができれば、次は「仮説」を立てるという段階です。「仮説」というと難しく聞こえるでしょうが、単純にいえば「どのような結果を予想するか」ということです。課題 1 でいえば、「気の長い人と短気な人の行動の違いは、こういうところに現れるだろう」と予想することであり、課題 2 では「教科の好き嫌いは、こういう要因が影響しているのではないか」と考えることであり、課題 3 では「子どもの攻撃性に影響するのは、テレビのこういう面ではないか」と考えることです。

この仮説がないと、研究計画が立てられないので、頑張って考えてください。

(6) 実際に研究を行うとなるといろいろ制約が出てきますが、ここでは机上で計画を立てるといふ課題なので、実行可能かどうかは考えないで、自由な発想で計画を考えてください。上記の仮説が明らかになったとして、いよいよ具体的な研究計画を考えます。研究計画の具体的内容については、課題ごとに説明します。仮説を明らかにした上で、

- ①課題1：1) 観察の対象をどのような人にするか また、その人数
2) 観察の場所と時間
3) どのような行動を観察対象とするか◎
4) 観察の仕方と記録の仕方◎
5) 観察が終わった後で、どのように分析するか
- ②課題2：1) 面接の対象をどのような人にするか また、その人数
2) 面接の内容(具体的な質問)と記録の仕方◎
3) 面接調査が終わった後で、どのように分析するか
- ③課題3：1) どのような子ども(年齢・性別など)を質問紙調査の対象とするか
(子どもたちが低年齢で質問紙に答えることが難しい場合は、どのような人たちを質問紙調査の対象とするか)
2) どのような質問紙(具体的質問項目)を使うか◎
(質問紙には、①テレビの見方や内容などについて調べるための質問項目と②「攻撃性」を調べるための質問項目が含まれることとなります。①については、「仮説」にしたがってどのような内容をどのような項目で尋ねたらよいか考えてください。また、②については全部で6項目とします。そのうち、3項目は「すぐに暴力をふるう」「言葉遣いが荒い」「つまらない、ささいなことでイライラする」とし、残り3項目は攻撃性を調べる上で適切な項目を各自で考えてください。その際、上で挙げた3項目の単純な言い換え(たとえば、「簡単に手を挙げる」「乱暴な言葉を使う」「ちょっとしたことで腹を立てる」など)にならないよう注意してください。
3) 調査の仕方
4) 調査が終わった後で、どのように分析するか
どの課題も、教科書のそれぞれの方法の「研究紹介」に示されている研究例を参考に計画を立ててください。紹介されている研究ほど綿密な計画でなくて構いませんが、基本的には同じような内容になります。また、レポートのポイントは、◎がついた項目です。

(7) レポートの内容

レポートは、次のような内容にしてください。

- 1) その課題を選んだ理由
- 2) 研究の目的と仮説
- 3) 研究計画
- 4) その課題に取り組んで考えたこと、難しかった点、工夫したところ、疑問、感想など



(1) 課題4

この課題は、「心理学研究法 I」のスクーリングを受講しない人が、2単位めの課題として取り組むものです。レポート作成にあたっては、1単位めの課題のアドバイスで述べた(1)と(2)の内容が非常に重要となります。教科書(とりわけ第2章、3章、5章の3節)をよく読み内容を理解してから課題に取り組んでください。

心理学の研究を進める上では、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」によって用いられる方法が異なります。また、それぞれの方法を通して得られるデータの性質(データの数や内容)や検査実施上の利点・留意点(一度に得られるデータの数、調査者や調査協力者の負担など)も異なります。したがって、実際に研究を行う際には、研究の目的や対象、仮説に合わせて、どの方法を用いるかを選択しなければなりません。では、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれによって、明らかにできる事柄、できない事柄はどのようなことなのでしょう。また、それぞれの方法によって得られたデータの特徴や実施上の利点・留意点はどのようなことなのでしょう。以上の内容について、それぞれ「効用」と「限界(留意点)」に分けて整理し、レポートを作成してください。

(2) 課題5

この課題は、「心理学研究法 I」のスクーリングを受講する人が、2単位めの課題として取り組むものです。「研究法 I」のスクーリングでは、「研究法の成り立ち」「観察法」「面接法」「質問紙法」に関して、その内容や効用・限界について解説していきます。また、この4つのテーマについて、より具体的に理解してもらうために、適宜実習を行います。そして、スクーリング終了後、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を実際に用いた研究論文を配布します。課題5は、これらの配布された研究論文の中から1つを選び、まず、その研究の①目的、②仮説、③仮説を確かめるために用いられている方法とその詳細についてまとめます。さらに、④あなたなら仮説を確かめるためにどの方法を用いるかについて考えを述べることで課題となります。

レポートは、次のような内容で作成してください。

①研究の目的

心理学研究においては、研究者が関心を向けた要因(従属変数)に対して影響を及ぼす

別の要因（独立変数）が考えられ、この独立変数と従属変数の関係について検討が行われます。たとえば、『福祉心理学科スタディ・ガイド』Ⅲ章の「心理学研究法 I レポート作成のためのヒント」について見てみると、清兵衛は「桶の売り上げ」に関心に向け（従属変数）、それに影響を及ぼす要因（独立変数）として、「風が吹くかどうか」や「店の雰囲気」を取り上げています。では、選択した研究論文において、研究者は独立変数、従属変数としてどのような要因を取り上げているのでしょうか。言い換えれば、どのような要因とどのような要因との関係を見ることが目的となっているのでしょうか。この点についてまとめてください。

なお、「①研究の目的」と次に述べる「②研究の仮説」は、研究論文では多くの場合、「問題と目的」の中に書かれています。また、研究によっては論文の題目を見るだけで、独立変数や従属変数が何であるかわかる場合があります。たとえば、「〇〇が××に及ぼす影響」といった題目であれば、〇〇が独立変数であり××が従属変数であることがわかります。

②研究の仮説

「①研究の目的」で述べた独立変数と従属変数について、独立変数は従属変数に対してどのような影響を及ぼすのでしょうか。この点について研究者が調査前に考える「仮の答え」が仮説となります。たとえば、先ほどの例を再び用いると、清兵衛は「風が吹くかどうか」という独立変数が「桶の売り上げ」という従属変数に対して、「風が吹くと桶の売り上げが下がってしまう」という方向ではなく、「風が吹くと桶の売り上げが上がってくれる」という方向で影響を及ぼすことを仮説として考えています。そして、実際の研究では、データを集め分析した結果に基づいて、その仮説が正しいかどうかについての検討が行われます。ここでは、選択した研究論文の中でどのような仮説が考えられているかについてまとめてください。

なお、研究論文においてはこの仮説が必ずしも明確に書かれているわけではありません。その場合、研究者がどのような仮説を考えていたかについて論文の中から読み取ることが重要となります。このレポート課題でも、「①研究の目的」で明らかにした独立変数と従属変数との関係について、つまり、独立変数が従属変数に及ぼす影響の方向について読み取り明記してください。

③研究の方法

ここでは、大きく [A. 調査の手続き] と [B. 独立変数と従属変数とを測定するために用いられた尺度] についてまとめてください。以下、「観察法」「面接法」「質問紙法」それぞれについて詳しく説明していきます。

「観察法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが観察の対象となっているか。また、その人数
- 2) 観察の場所や状況、所要時間
- 3) 観察方法（自然観察法か実験的観察法か）
- 4) 観察の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている行動カテゴリーや基準。そして、その行動カテゴリーや基準の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的な内容、そして、従属変数を調べるために用いた基準や行動カテゴリーとその具体的な内容を分けてまとめてください。

「面接法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが面接の対象となっているか。また、その人数
- 2) 面接が行われた時期、所要時間
- 3) 面接方法（構造化面接か非構造化面接か半構造化面接か）
- 4) 面接の流れと記録の仕方

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている質問の具体的な内容。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた質問内容と、従属変数を調べるために用いた質問内容を分けてまとめてください。

「質問紙法」について

[A. 調査の手続きについて]

- 1) どのような人たちが質問紙調査の対象となっているか。また、その人数
- 2) 調査の仕方（質問紙の配布方法や回収方法）
- 3) 用いた質問紙や尺度。そして、その具体的な項目

[B. 測定尺度について]

独立変数や従属変数を調べるために用いている尺度とその具体的な項目。ここでは、独立変数と従属変数それぞれに対応する形でまとめてください。つまり、独立変数を調べるために用いた尺度や質問項目と、従属変数を調べるために用いた尺度や質問項目とを分けてまとめてください。

④あなたなら「面接法」「観察法」「質問紙法」のうちどの方法を用いるか

選択した研究論文では、「観察法」「面接法」「質問紙法」のいずれかの方法を用いて研究が行われています。「観察法」「面接法」「質問紙法」にはそれぞれそれぞれを用いる効用と限界があります。つまり、「どのような現象を明らかにしたいのか」あるいは「どのような対象に対して研究を行うのか」さらには「どのような仮説を確かめたいのか」などについて、得意な部分と不得意な部分がそれぞれあるのです。そして、研究計画を立てる際にはこのような各研究法の効用と限界についての理解に基づき、研究の方法を選択することが必要になります。

では、選択した研究論文と同じ目的や仮説のもとで研究計画を立てる場合、あなたなら「面接法」と「観察法」と「質問紙法」のうちどの方法を選択するでしょうか。ここではその方法と選択理由について述べてください。もちろん、研究論文と同じ方法を選択しても構いません。ただし、その選択理由として「選択した論文で用いられていた方法だから」というのはやめてください。たとえば、「この研究においては、〇〇（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）だから、××という特徴を持つ“面接法”（“観察法”“質問紙法”）を用いるのが適切だと考えたため」といった形でまとめるようにしてください。さらに、「この研究においては、〇〇（焦点が当てられている現象や対象、仮説の内容など）だから、△△という特徴を持つ“面接法”（“観察法”“質問紙法”）はあまり適切ではないのではないか」ということを付け加えても構いません。

参考図書

- 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦編著『心理学研究法入門』東京大学出版会、2001年
 南風原朝和・市川伸一・下山晴彦著『心理学研究法』放送大学教育振興会（NHK出版）、2003年
 高野陽太郎・岡隆編『心理学研究法』有斐閣、2004年
 『心理学マニュアル 研究法レッスン』『心理学マニュアル 面接法』『心理学マニュアル 観察法』『心理学マニュアル 質問紙法』『心理学マニュアル 要因計画法』北大路書房、1997～2000年
 高橋順一ほか編著『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年
 日本発達心理学会監修『心理学・倫理ガイドブック』有斐閣、2000年
 『発達研究の技法』『臨床心理学研究の技法』『社会心理学研究の技法』『性格研究の技法』『認知研究の技法』（シリーズ・心理学の技法）福村出版、1999～2000年
 『心理学研究法』（1～17）東京大学出版会
 W. J. レイ著・岡田圭二訳『エンサイクロペディア 心理学研究方法論』北大路書房、2003年

- 森正義彦・篠原弘章『心理学研究法』培風館、2007年
 伊藤正人『心理学研究法入門』昭和堂、2006年
 吉田寿夫編著『心理学研究法の新しいかたち』誠信書房、2006年
 大山正ほか著『心理学研究法』サイエンス社、2005年
 丹野義彦編『臨床心理学研究法』誠信書房、2004年
 山本力・鶴田和美編著『心理臨床家のための「事例研究」の進め方』北大路書房、2001年
 鈴木淳子著『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版、2002年
 松浦均・西口利文編『観察法・調査的面接法の進め方』ナカニシヤ出版、2008年
 安藤清志・村田光二・沼崎誠編『新版 社会心理学研究入門』東京大学出版会、2009年
 やまだようこ編『現場（フィールド）心理学の発想』新曜社、1997年
 田尾雅夫・若林直樹編『組織調査ガイドブック』有斐閣、2002年

※この科目の1単位めに取り組むにあたってのアドバイスが本学ホームページ上で視聴可能です。『学習の手引き』記載の要領をご覧ください。